

令和元年度 「言語聴覚の日」イベント報告



山形県（最北）

開催日： 2019年11月9日(土) 第1部講演10:00～11:30 第2部お茶会11:40～12:30

当日参加者は25名、STの手伝いは9名、会場は新庄駅構内の研修室ゆめりあで、合計34名顔をみながら話のしやすいゆったりとした雰囲気で開催しました。参加者は最上郡内の方が中心でしたが東根市や大石田町から参加された方もおり、フォーラムを知ったきっかけは、チラシを目にした言語聴覚士からの声かけ・広報誌のお知らせの順で、NHKのニュース放映をみて興味を持ったとの声もきかれました。特に今回参加を声かけた失語症当事者の方が2組、ご家族とともに参加して下さり、また今後山形県での失語症者向け意思疎通支援事業の開始も見据えて参加を働きかけた行政担当者の方も新庄市・最上町・金山町3市町村の4名参加頂きました。

講演前後で会場の皆さんに挙手を求めた失語症の基本的知識10問の〇×も、終了時には会場のほとんどの方が正しく理解されており、「内容がわかりやすかった」との声を多くいただきました。失語症の方の気持ちの体験やコミュニケーションの方法の実践なども交えて時間も予定通り順調に進み、講演終了後のお茶会にも20名の参加者の方が参加して下さり、終了まで話は尽きませんでした。

お茶会では、失語症当事者の方から外出がおっくうになったとお話があり、今回のフォーラムにも勇気を出して参加して下さったことが伝わりました。またご家族からの相談も多く寄せられ、「失語症のリハビリは長く続けられるのか」「身体障害のない失語症の場合、介護保険などのサービスは利用できるのか」などの質問に対しては言語聴覚士とケアマネージャーさんから回答すると、「質問をどこにしたらよいか困っていた、今日聞くことができて少し安心した」と仰っており、気軽に相談できる場所の確保も必要だとわかりました。

「病院退院後にリハビリを受けられる場所がない」という最上の環境面の問題も浮き彫りになりましたが、参加された方・また当日参加できなかった方からも今回のような会の継続を望む声がかかれました。失語症当事者・ご家族とSTがかかわる初めての機会であったことや村山と最上支部が集まっての事前会議ができなかった準備不足もありましたが、手伝ったSTからは参加して良かったとのこと、知恵を出し合って今後もこのような機会を継続できる体制づくりをすすめていきたいと思えます。

(文責:沼澤)

